

# ATEM Newsletter

ATEM公式サイト <http://www.atem.org/>

January, 2024

No.45

## 全国大会特集号

発行 : 映像メディア英語教育学会事務局  
(旧映画英語教育学会)  
住所 : 〒605-8501  
京都市東山区今熊野北日吉町35  
京都女子大学 文学部  
横山仁視研究室内  
E-mail : office@atem.org

映像メディア英語教育学会 / The Association for Teaching English through Multimedia

### ■会長挨拶

横山 仁視  
(京都女子大学)

**ATEM President**  
**Hitoshi YOKOYAMA**  
(Kyoto Women's University)



左から、Lee Jawon 名誉会長、本人、  
Lee Jong-Bok 現会長、Lee Junkyu 前会長  
(2023年10月27日、Eve Partyにて)

日頃は一般会員ならびに賛助会員各社の皆様から本学会運営に多大なるご支援およびご協力、またご意見をいただきましてお礼申し上げます。

COVID-19 が世界中に蔓延し、教育現場に待ったなしの改革を余儀なく求められたのが 2020 年新学期直前のことでした。あれから 4 年目を迎える中、ICT に関連して AI や ChatGPT という言葉が台頭し、関連するツールが次から次へと生まれてきました。同時に関連する論文も、自分が先駆者であると言わんばかりに、次々と出てきている現状です。素朴な努力によって自らの語学力を培ってきた世代には、率直に言って荷が重いと感じるのは私だけなのでしょう。松本青也氏は、言語教育の未来について次のように述べています。

「AI 翻訳の精密度がますます高まり、対話型 AI や生成 AI もこれほど万能になると、英語学習者の立場からは、いつもそばにいて、どんな質問にも即座に答えてくれて、多言語を操って絵も上手く、おしゃべりにも気長に付き合ってくれるネイティブスピーカーを月給 20 ドルで雇っているようなものだ。うまく活用すれば学習効率は高まる。しかし影響はそれだけにとどまらない。AI の進化と普及は英語教育そのものを、さらには世界の言語状況までも大きく変えて行くことだろう。」(『英語教育』, 大修館書店, February 2024, vol.72, no.12, p.33)

松本氏の見解に共感する私は、この先、AI 中心の時代の圧力が教師の優劣を決めて淘汰していくような、そんな社会が到来することを懸念しています。

さて、国際交流委員会の報告にもあるように、本学会の姉妹学会である韓国 STEM の全国大会が去る 2023 年 10 月 28 日(土)に Kookmin University (国民大学)にて完全対面で開催されました。2019 年度の大会以来待ち望んでいた対面開催であっただけに、前日の Eve Party (左写真)では大切な同朋と再会できた喜びは大きいものでした。

今大会で特筆すべき点は、ATEM からの発表者がキーノート・スピーカーを含め 10 人だったこと、また個人の研究発表 20 枠のうち ATEM からは 7 枠と全体の三分の一を占めたことです。「STEM での参加=発表」という意識の高さが表れた結果でした。STEM はこれまで ATEM からの参加を強く希望しており、私も訪韓するたびに直接打診されてきました。会員の皆様には 23 年におよぶ長年の姉妹学会であることを今一度お考えいただき、STEM 大会に参加(研究発表)していただきますようご協力をお願いいたします。

ATEM は今年度の全国大会を対面で開催すべく日程を調整しており、近いうちに概要をお知らせ致します。特に 2024 年度の全国大会は ATEM の新体制・新会長のお披露目の場ともなりますので、何卒ご参加のほどよろしく願いいたします。

最後に、ATEM は昨年、正式名称を「映像メディア英語教育学会」に改めましたが、自らが抱える負の遺産を次期体制に残さぬように、一步一步、現 ATEM が抱える問題の整理と解決を進めているところです。

また、懸案となっておりました中部支部再建に向け、中心となり活動していただいている同支部再建懇談会主催の行事、「第 2 回多言語多文化研究会」も、3 月末に開催される予定です。この行事につきましても、皆様のご支援ご協力をどうぞよろしく願いいたします。

==== 全国大会報告 ====  
 第28回 ATEM (映像メディア英語教育学会) 全国大会  
 テーマ: 映像メディアで英語感覚と異文化理解を育む  
 Fostering Linguistic and Cultural Senses  
 through Multimedia  
 2023年11月4日(土)・5日(日) オンライン開催

■ STEM 特別発表

ChatGPT, Can You Really be My Best Writing Tutor?

LEE Yoo Jean (Kangwon National University)



Lee 先生とご発表スライド

Recently, with advances in NLP (natural language processing) technology, the capability of machines to translate and tag words for part-of-speech has increased dramatically, which has in turn led to the development of several new programs and applications. Undoubtedly, the one that has garnered the most attention is Chat GPT. Chat GPT is an AI chat service that can respond in ways that are very similar to a human and can take commands (known as prompts) in very natural language so that even complete beginners can use the service without problems. Furthermore, many studies have begun to look at the merits and demerits of using Chat GPT in foreign language classes to help teach English as a practice partner and advice-giver for writing assignments. Professor Lee gave a presentation on how she used Chat GPT in her writing classes in a Korean EFL context, provided practical advice for using it, presented the merits and demerits, and also spoke about some of the points to be careful of when using it in class.

Specifically, Professor Lee introduced Chat GPT via group work, asking her students to first work on a writing assignment in groups, and then asking them to ask Chat GPT for advice. According to Professor Lee, the appropriateness of the advice given by Chat GPT changed depending on the quality and specificity of the prompt, so she worked with students to help them generate good prompts that would afford them useful feedback. She also found that rather than simply asking Chat GPT for advice and implementing the advice given the first time, students received better advice when they asked Chat GPT follow up questions about the initial advice they received.

By observing students' interactions with Chat GPT and helping to guide the troubled students through the experience through advice, Professor Lee's students were all able to obtain proper advice that they found helpful in editing their writing. From this study, we learned that it is not enough to simply foist Chat GPT on students. Rather, the students require training, advice, and coaching in order to achieve the maximum educational benefits from this new technology.

(Ryan Spring)

■ 特別ワークショップ

映像メディア教育と著作権

井村 誠 (大阪工業大学)



井村先生とご発表スライド

本ワークショップにおける井村先生(著作権問題専門委員)の発表内容は概ね以下の通りである。

西日本支部では、著作権について学ぶとともに、学会の社会的責任として「公正な著作物の利用」の在り方について社会に発信するための研究会を立ち上げ、ATEMの著作権問題顧問の甲野正道先生にアドバイスを頂き

ながら、2019年より独自の研究を進めてきた。その結果分かったことは、授業における著作物の利用は、多くの場合 35 条（授業の過程における利用）の適用によって認められ、研究発表や論文における著作物の利用は、多くの場合 32 条（引用）の適用によって認められるということである。「教育のデジタル化に対応するための著作権法改正」（2020）等の新しい状況を踏まえ、いくつかの問題点について Q&A 形式で検証してみる。

Q：授業中に配布するプリントの枚数について制限はあるか？

A：原則、授業を受けている学生の数に制限される。

Q：教科書をコピーして学生に配布する時、ページ数に制限はあるか？

A：ごく一部のページに留めるなどの注意が必要。

Q：教育利用の場合、リップリングは違法か？

A：教育利用の場合は私的使用には当たらないので、違法ではない。

Q：個人で録画したテレビ番組を許諾なしで授業で見せることはできるか？

A：できる。

Q：Netflix などの配信動画を録画・録音したものを授業に使用できるか？

A：サービスを提供する会社の規約外の利用は契約違反になる。

この他、研究活動における著作権問題についても多くの事例を挙げて解説がなされた。西日本支部の HP には、これらの研究結果をまとめた『著作権ハンドブック』が掲載されている。

（藤枝 善之）

## ■特別講演

### Learning, through Film, to Appreciate Linguistic Sensibilities in English

PETERSEN Mark (Meiji University)



Petersen 先生とご発表スライド

今回のワークショップでは、『ローマの休日』（Roman Holiday, 1953 年）の台詞やその文脈、テーマの吟味を通じて、英語の微妙な感覚や映画の深い意味の味わい方について改めて教えられた。

Ann の成長については、ローマでの最初の夜のベッドの場面で、だだをこねる子どものような態度や台詞、子どもっぽさを示唆する milk and crackers に対して、恋愛体験後のバスローブ姿の場面ではワインを飲み、Joe とのつらい別れを決意して宮殿に戻った後のベッドが背景に映る場面では、自らの任務を自覚する「大人の女性」（王女）になったことを明確に表している。

具体的な語彙使用の例として、夜の屋外で横になっている Ann を見つけ、彼女は酒に酔っていると思って Joe が話しかける場面では、主語を you ではなく people にして “... people who can't handle the liquor shouldn't drink.” と一般化して言っている。また、ショートカットにした Ann がスペイン広場でアイスクリームを食べる場面では、昨夜学校から逃げ出したのよと半分嘘も含む告白をした Ann に対して Joe は “Well, you don't just run away from school for nothing.” というが、主語を “you” に、現在形 “don't~” を使うことで、焦点を相手からずらす一般化によって、彼女に対して優しい台詞となっている。その他にも、Joe の部屋で目覚めた Ann の困惑した様子を見て彼が言う “Did you lose something?” の joke など、微妙な会話を味わうことのできる、それだけの価値がある名作であることがよくわかり、とても有意義なワークショップだった。

（日影 尚之）

## ■表彰式・総会

総会では、横山会長から、あと一年となった任期に残る課題（支部体制やジャーナルのオンライン化など）に取り組むという旨の方針が示された。その後、



司会の巳波先生

昨年度の会計を担当くださった金田先生より第 29 期決算報告が行われ、続いて事務局長の藤枝先生より学会名変更のための会則変更案の提案があり、両事案共に承認された。

（巳波 義典）

## SIGs (Special Interest Groups)とは?

支部内および支部の垣根を越えた研究・教育活動の促進を目指して設立されたグループです。既に申請されている SIGs の詳細につきましては、本学会 HP をご参照ください。各 SIG への質問等は、直接代表者の方へご連絡ください。

### ■ Session 1 Room A

(文化・文学/映画分析研究会)

#### アメリカ文学の映画化におけるジェンダーをめぐる問題



(左) 村田先生



(右) 砂川先生

本シンポジウムでは、19 世紀のアメリカを代表する作家、ナサニエル・ホーソンとヘンリー・ジェイムズ、それぞれの長編小説の映画化を取り上げ、アメリカ文学の映画化におけるジェンダーをめぐる問題を考察した。まず、村田先生が、植民地時代の抑圧的な宗教社会における姦通を描いたホーソンの代表作『緋文字』のアダプテーションである『小悪魔はなぜモテる?!』(2010)を取り上げ、映画に表象されているジェンダーや宗教問題、LGBT 差別問題について検討した。砂川は、ジェイムズの長編『メイジーの知ったこと』の映画化作品『メイジーの瞳』(2012)を取り上げ、イギリスとアメリカにおける離婚や親権(監護権)に関する法律の変化を概観しながら、映画に見られる「子の最善の利益」という概念や単独親権や共同親権を巡る問題、また働く女性が直面する新たなジレンマを論じた。

(砂川 典子)

### ■ Session 1 Room B

#### (SIG on Creating Visual Media Products for the Enhancement of Foreign Language Learning)

#### Increasing Engagement with Video Materials through an Interactive Speaking Element: The Case of Indirect Speech Videos at Tohoku University



(左上) 中村先生



(右上) 濱上先生



(左下) 大月先生



(右下) Spring 先生

「間接的な英語表現」は、普段の会話の中で多用されているものの、英語の第二言語話者には習得が難しい。本 SIG では、その習得を促進するための動画教材の研究開発を行っている。2022 年の研究では、学習者がこの動画教材を視聴した頻度と「間接的な英語表現」の習得に相関性を認めることができた。一方、検討すべき課題もいくつか得られた。その課題の一つが「学習者参加型」とするためのさらなる改善である。2023 年度は 2 種類の学習者参加型の動画教材を作成した(動画内の会話に参加するタイプと、動画内の話者が学習者に話しかけるタイプ)。どちらも学習者の応答に対して、動画内でフィードバックが即座に与えられる。動画教材を使用する前後で学生の「間接的な英語表現」の習得度合を測るテストを実施したところ、改善が見られ、学生自身も授業内での会話練習に役立ったと感じたことが分かった。今後は、フィードバックのさらなる工夫など、教材を改善する予定であることを報告した。

(中村 佐知子)

## ■ Session 2 Room A (SIG on Medical English)

### Motivate Future Healthcare Professionals to Learn English by Using Visual Media Related to Global Health Issues



(左上) 北間先生  
(左下) 南部先生

(右上) 渡辺先生  
(右下) 松田先生

本シンポジウムでは、医療従事者を目指す学生の英語の学習意欲を高め、英語の理解を促進する実践例や教材を紹介した。特に、医療系の学生にとって関心の高いグローバル社会における医療の問題を扱った映像メディア教材に焦点を当てた。北間先生は、日本で承認されたばかりの「薬による中絶」について、医療系の学生が理解するのに役立つさまざまな教材を紹介した。渡辺先生は、海外でウクライナからの難民を支援する日本人看護師と日本の学生を Zoom で結び、難民への関心と英語の学習意欲を高める活動を紹介した。南部先生は、解剖生理学を学ぶ看護学生の英語の学習意欲を高めるため、解剖生理学担当教員の協力を得て、視覚教材を使った英語の小テストを作成し、学生の意欲を引き出すことに成功した実践例を紹介した。松田先生は、コロナウイルス感染症をテーマにした医療ドラマに着目し、英語や異文化理解の促進にどのように活用することが可能か論じた。

(足利 俊彦)

## SIG 一覧 ※ ATEM HP 掲載

- 医療英語研究会 (SIG on Medical English)
- 映画映像とコーパスによる文化的英語教育研究会 (SIG on Teaching Culture and English through Movies and Corpus)
- インタラクティブ英語動画教材の学習効果に関する研究会 (SIG on the Learning Effects of Interactive English Video Materials)
- 英語学研究会 (SIG on English Linguistics)
- 文化・文学/映画分析研究会 (SIG on Studying on Literature and Culture through Media)

## ◆ 第29回 ATEM 全国大会会場 ◆ 京都女子大学



(上) 図書館 (下) 錦華殿

## ■ 会員著書

- Barry Kavanagh, “Manga and anime Demon Slayer to foster intercultural awareness and critical thinking: A film and media literacy university course in Japan.” In Elena Domínguez, et al. (eds.) *Rethinking Multimodal Literacy in Theory and Practice*, Peter Lang
- 村田希巳子「劇作『ミネオラ・ツインズ』の隠れたメッセージとは」鈴木元子編『ユダヤ系アメリカ文学のすべて：十九世紀から二十一世紀』小鳥遊書房
- 松中完二「多義の原理についての認知意味論的考察—意味拡張の有契性について—」山梨正明編『認知言語学論考 No.16』ひつじ書房
- 松中完二『フェラーリとランボルギーニ』三省堂書店

## ■第28回全国大会研究発表一覧

タイトルの表記言語は発表での使用言語を指す。  
敬称略。

////////////////////////////////////

### 【Session 1】

Evaluating Japanese English-Language Youtubers' Camaraderie to Subscribers from the Perspective of Teaching Material Research: In Search of English Sense and Cross-Cultural Understanding

WAKAYAMA Norio (Shobi University)

### 【Session 2】

Does Content Matter in Writing? Observing Impact on L2 Writing Using the TV Series "The Good Place"

KANG Hyejeong (Kookmin University)

### 【Session 3】

映画「ジュマンジ」を使ったメタ認知を育てるライティングの授業

白石 よしえ (近畿大学)

Hokkaido Public High School Entrance Exams

NISHI Yoshikazu (freelance)

Material Development for EFL Korean Learners with English Listening Skill Assessments in Korea

CHO Bokyoung (KICE)

KIM Doyoung (Busan International Middle School)

JEONG Yeji (Duksoo High School)

CHO Sumin (Junghwa Middle School)

YOON Younhyun (Mokil Middle School)

### 【Session 4】

『ムーラン』をジェンダーと異文化理解の教材として利用する—アダプテーション作品の教育的利用可能性—

林 日佳理 (岐阜大学)

Fostering Cultural Sensibilities through Transnational Cinema Texts

MCAULAY Alec (Yokohama National University)

Incorporating Movies as a Teaching Tool to Improve Productive Skills in the EFL Elementary Classrooms

CHOI Gayoung (University of Nebraska Lincoln)

### 【Session 5】

人間の立ち位置と責任、希望—Darren Aronofsky の *Noah* (2014) と地球環境的なナラティブ—

日影 尚之 (麗澤大学)

Engaging Students in Speaking Activities with Video Prompts

SPRING Ryan (Tohoku University)

A Glimpse into University Students' Self- and Peer-Evaluations of Student-Created Videos for Discussion Boards

IRVIN Christopher (Dankook University)

### 【Session 6】

『ファンタスティック・ビーストとダンブルドアの秘密』(2022) で学ぶアイデンティティの問題と「血縁の絆」

塚田 三千代 (映画アナリスト)

Multimodal Material Creation for Specialist English Language Education

KAVANAGH Barry (Tohoku University)

Korean English Learners' Perceptions on Generative AI

YOON Tecnam (Chuncheon National University of Education)

### 【Session 7】

映像メディアを利用して制作したバイリンガルニュース報道から学ぶ英語感覚と異文化理解

塩見 佳代子 (立命館大学)

映画における英語構文とポライトネス

山縣 節子 (京都外国語大学)

A Teacher-Friendly Way for Measuring English Language Proficiency: A Guide to Develop a C-test

CHOI Jong-gab (Chuncheon National University of Education)

### 【Session 8】

虫の声？ 虫の音？—外国人学生が聞こえる音調査—

関口 美緒 (名古屋大学)

英語力測定テストとしての映画の活用と MET の“再”最小化への取り組み—MET『カサブランカ』バージョンを例に—

飯田 泰弘 (岐阜大学)

Analysis of the Effectiveness of Utilizing Speech-to-Text Translation System in English Classes for Foreign Students

WON Eun Sok (Mokwon University)

### 【Session 9】

ChatGPT を映像題材の受信・発信タスクに活用する試案

磐崎 弘貞 (東京経済大学)

To Accept or Not to Accept: Korean Primary School English Teachers' Attitude Changes through World Englishes-Informed Teacher Training

IM Jae-hyun (Daegu National University of Education)

## ■ 支部だより

### 【北海道支部】

◆毎月10日に支部研究会として、カジュアルな情報交換の場である「マイシェア」を開催しています。4月以降の発表タイトルには、「親しさを伝える英語」、「洋楽は英語学習に効果的? : 卒業生インタビューから考える影響の持続力」、「『ハチ公物語』と『HACHI 約束の犬』: 比較・考察から見えてくるもの」などがあり、バラエティに富んだユニークな発表がおこなわれてきました。オンライン開催ですので、他支部・非会員の方もご自由に、申し込み不要で参加いただけます。支部間交流の場としても、ぜひお気軽にお越しください（詳細は支部HPをご覧ください）。

（支部長：斉藤 巧弥）

### 【東日本支部】

◆2023年7月1日の夏季例会（ハイブリッド）では6件の発表（塚田先生、関口先生、Nishi先生、McAulay先生、Spring先生 & Nakamura先生、日影先生）がありました。9月23日の東北特別研究会（仙台、対面）では6件の発表（桜井先生 & 中村先生、日影先生、大月先生、小泉先生、Kavanah先生、Spring先生 & Nakamura先生）がありました。

◆支部HPには映像メディア英語教育に関する記事「支部だより」を掲載していますので、どうぞご覧ください。12月17日（日）に東京で支部大会（ハイブリッド）を実施しました。

（支部長：日影 尚之）

### 【西日本支部】

◆2023年9月2日（土）に、京都外国語大学にて、西日本支部設立20周年記念大会を対面形式で開催しました。支部設立に多大なる貢献をされました赤野一郎名誉教授（京都外国語大学）による特別講演や、著作権に関する特別企画として、甲野正道教授（大阪工業大学）による特別講演も行われました。その他、ICTツールの活用についての企画ワークショップや、英語学SIGのメンバーによるシンポジウムも実施されました。様々な方々のご尽力により、無事大会を実施できましたことを心より感謝申し上げます。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

（支部長：近藤 暁子）

### 【九州支部】

◆第25回九州支部研究大会を2023年8月26日（土）に佐賀大学（本庄キャンパス）にて開催しました。2019年大会（於：福岡大学）から実に4年ぶりの対面開催でした。大会当日には5件のご発表があり、会場には多くの方にお集まりいただきました。

◆前任の高瀬先生からバトンを受け取ってから6年。長らく支部長を務めさせていただきましたが、私の任期も今年度で満了となります。2024年度からは、鹿児島女子短期大学の石田もとな先生を支部長とし、新たな体制での支部活動が始まります。より一層のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

（支部長：吉村 圭）

## ■ 委員会だより

### 【ジャーナル編集】

◆ATEM ジャーナル第29号には12編の論文の投稿がありました。ご投稿くださいました会員の皆様に御礼申し上げます。論文はそれぞれ3名の査読委員に審査いただきました。お忙しいところご協力いただきました査読委員の皆様には厚く御礼申し上げます。

◆現在、ICT委員会と協力してATEMジャーナルの電子ジャーナル化を進めております。

（委員長：足利 俊彦）

### 【国際交流】

◆コロナの影響がやっと少なくなり、2023年のSTEM国際大会は、SETAと協同でソウルで実施されました。ATEMからは11名が参加し、研究と教育に関する意見交換と文化交流ができました。元国際交流委員長の井村誠先生（大阪工業大学）と現国際交流委員長の筆者がキーノートの発表をした他、ATEMメンバー7名が研究発表をしました。

◆2023年のATEM全国大会では、Chuncheon National University of EducationのYoon Tecnam先生が特別発表をし、STEMから他に8件の個人研究発表がありました。

◆STEMから積極的にジャーナルに投稿していただきたいとの依頼がありました。

（委員長：Ryan Spring）

### 【大会運営】

◆11月4日～5日に開催された第28回ATEM全国大会は、約100名の参加者を得て無事終了しました。ご協力ありがとうございました。

（委員長：藤枝 善之）

### 【会員管理】

◆MiiT+（ミータス）の本人認証が完了していない会員の皆様は、速やかにお済ませいただけますようお願い申し上げます。以前お送りした「【ATEM】仮ログインIDおよび仮パスワードのお知らせ」というタイトルのメール内記載の「仮ログインID」および「仮パスワード」を使って、ATEM(映像メディア英語教育学会)本人認証画面<https://miiitus.jp/t/ATEM/login/temp/>から、本人認証の実施をお願いいたします。

（委員長：嘉来 純一）

### 【ICT】

◆ジャーナル編集委員会と協力して、ATEMジャーナル第23号以降の記事をJ-STAGEへ登録する作業を進めております。ご不便をおかけいたしますが、今しばらくのご猶予をいただきますようお願いいたします。

（委員長：巳波 義典）

### 【著作権問題】

◆11月4日の全国大会において、当委員会主催で「映像メディア教育と著作権」と題する特別ワークショップを催し、委員の一人である井村誠先生（大阪工業大学）に西日本支部における研究の成果を発表して頂きました。

（委員長：藤枝 善之）

■決算報告

第29期 ATEM (映像メディア英語教育学会) 【決算報告書】  
2022年4月1日～2023年3月31日

収入の部			支出の部		
前年度繰越		1,125,324	1 大会開催費	Zoom1ヶ月契約料 (11月6日全国大会)	2,200
1 一般会員年会費	2022年度分@5,000 (208人×5,000円)	214 1,040,000	2 ニュースレター発行費	ニュースレター印刷費 (No.41)	50,000
	2022年度分@10,000 (7人×10,000円)	7 70,000	3 ATEMジャーナル発行費	ATEMジャーナル印刷費 (抜き刷り含む) (第28号)	269,000
	2022年度分@20,000 (3人×20,000円)	1 60,000		角3封筒 2色	13,500
	2022年度分@15,000 (2人×15,000円)	1 30,000		上記封入作業代4点 (ラベル貼り込み等)	4,755
2 賛助会員年会費	2022年度分@15,000 (松柏社@15,000円7月)	1 15,000		消費税	33,725
	2022年度分@10,000 (1.金星堂、2.成美堂、3.国際トラベル京都、4.英宝社、5.朝日出版社、6.桐原書店、7.センゲージラーニング)	5 70,000		振込用紙等の郵送費	98,270
	2022年度分@5,000 (松柏社5,000円6月、4月)	10,000		サーバーレンタル代 (さくらネット7月から1年間)	5,238
	合計	1,295,000		北海道、東日本、西日本、九州 各50,000円	200,000
3 大会参加費		0		横収証の冊子、住所録印刷ラベルシール、賞状、証書ファイル	4,658
4 書籍売り上げ		0		8 通信費	9,744
5 その他売り上げ		0		9 謝会費	10,000
6 受取利息		4		10 理事会・遠隔地補助	0
				11 消耗品費	0
				12 懇親会費	0
				13 各種振込料	5,280
				14 優秀論文賞副賞	10,000
				15 会計監査報酬費 (森 智幸公認会計士・税理士事務所)	33,000
				16 全国大会特別公演講師料	11,000
				17 横山先生立替分	-15,526
小計		2,420,328	小計		744,844
				小口現金	20,610
				みずほ銀行	0
				りそな銀行	397,289
				郵便振替口座 (ゆうちょダイレクト)	1,257,565
合計		2,420,328	翌年度繰越金		1,675,484
			合計		2,420,328

※ 個人会員 359名・賛助会員 10社  
昨年度参考 ※ 個人会員 347名・賛助会員 11社

2023年8月28日 上記の通り相違ありません  
会計監査 森 智幸 



# ATEM Clapper Board

- 第28回ATEM全国大会へご参加頂いた以下の賛助会員の皆様に改めてお礼を申し上げます。  
朝日出版社、桐原書店、金星堂、松柏社、成美堂の各社様 (50音順)
- ATEMはX(旧Twitter)でも情報を発信しております。  
[https://twitter.com/ATEM\\_news](https://twitter.com/ATEM_news)
- 10月27日のBSテレ東『武田鉄矢の昭和は輝いていた』に藤枝事務局長が出演し、メインゲストの戸田奈津子氏やホストの武田鉄矢氏と共に、昭和20年代までの洋画作品について語り合いました。  
(事務局長：藤枝善之)

～編集後記～

- ◇年末年始のお忙しい中、本号作成に様々な形でご協力くださいました皆様に、心よりお礼申し上げます。
- ◇次号は2024年5月頃に発行予定です。

<賛助会員一覧> 2023/11/30 現在 (50音順)

- 朝日出版社
- 英宝社
- 桐原書店
- 金星堂
- 国際トラベル京都
- コスモピア
- 松柏社
- 成美堂
- センゲージラーニング
- モデル・ランゲージ・スタジオ

※当NL掲載の固有名詞は、各社が商標として使用している場合があります。

[ATEM Newsletter 編集委員会] 2024.1.10 現在  
委員長：秋好礼子 (九州)  
委員：田口雅子 (北海道)  
杉浦綾子 (東日本)  
衛藤圭一 (西日本)  
石田もとな (九州)

